学区の文化財

A 神原家住宅長屋門(登録有形文化財) 建築年代:19世紀初期頃

牧野地区の中心地大久和に所在する。先祖は 今川家重臣で、駿河蒲原城主をつとめた。戦国末に当地に至り慶長九年に帰農。建物は、桁行 20.0m、梁行 3.6 m、入母屋造、茅葺き銅板蔽い屋根でできている。

B 大石神社本殿

建築年代:１７５８年に再建

篠原・牧野地区の氏神として、奈良時代石凝姥命を祀っている。

宝暦八年 １７５８年に再建され、本殿・幣殿・拝殿からなっている。

奉納神事として、村歌舞伎(地芝居)があり、近郷近在にその名を知られていた。戦後後継者難から昭和４０年以降催されていなかったが、現在は再び毎年８月に行われている。

C 蓮乗院本殿

建築年代:１２８５年 鎌倉極楽寺開山忍性律師

弘安八年(1285)阿弥陀如来を本尊とし、堂ケ尾山天徳堂を創設したと伝えられている。現在の本堂は二百年ほど前に建てられている。

学区には、大鐘という地名がありますが、１３４２年忍性律師入寂の折り、五尺余の大きな銅鐘を鋳造し、地名大鐘の由来が記されていたとのことである。

Ｄ 八幡神社（中尾八幡神社）

建築年代：延享元年（１７４４年）

下野の宮大工大森三左衛門による。三左衛門は、日光東照宮の宮大工より技術を学び１７４２年に着工している。正面扉両側、左・右・後側面の彫刻等優れた作風が見られる。

また、中尾八幡大杉（神奈川の名木 100 選）もあり、子ども６人で抱えることができるほどの大木である。

Ｅ 伏馬田城址（尾崎城址）

伏馬田城は、別名尾崎城とも言い、尾崎掃部助が守っていたこのことから、尾崎城祉とも言われている。尾崎城からは、道志川に沿って甲斐へ至る往来を監視するのに絶好の場所であり、津久井城への烽火台として、重要な役割を担っていた。

津久井町の又野に移り住み、「憲政の神」といわれた尾崎行雄（咢堂）も、昭和９年に、祖先を懐かしみ登っている。

Ｆ 峯山

標高５７０ｍの山で、頂上には、古峯神社があり、最神、日本武尊が、「火伏の神」として崇敬を受け、今に至っている。峯山のふもとからいくつもの登山ルートがあり、今では、各村々の人達が頂上での祭典行事を五月に行っている。

Ｇ 石砂山　　藤野町１５名山　　標高５５８ｍ

神奈川県指定特別天然記念物であるギフチョウの生息する山である。

国道413号線から見える石砂山は、新緑の季節の姿はとても素敵で、毎年５年生の総合的な学習の一環として登山計画があり、このギフチョウとの出合いを楽しみにしている。